

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・「学力の向上」については、児童のやる気を十分に引き出すことができず、基礎学力の定着までは至らなかった。また、タブレットの効果的な活用については今年度からが本格的なスタートである。 ・「心の教育」については、校内研究を通して道徳科に取り組んできた。しかし、一部の児童については言葉づかいや態度面でまだ課題が残っている。 ・「健康・体づくり」や「業務改善」「地域愛」等については、一定の成果は出せたものの課題も明らかになった。今年度はその課題克服に向けて、具体的な手立てを講じながらより一層の努力を行っていきたい。		
2 学校教育目標	「夢に向かって輝く」児童の育成 ～優しく 賢く 逞しい 東脊振の子～		

3 本年度の重点目標	①学力の向上を目指し、学習規律の徹底と基礎学力の定着を図る。また、全児童に貸与されたタブレットを活かし、スキルタイムや授業での活用の充実を図る。 ②これまでの研究で培ってきた道徳教育による心の教育を基盤に、あいさつの励行と相手を思いやる言葉づかいの徹底を図る。 ③豊かな体験活動を通して自己肯定感の醸成を育むとともに、地域との連携を充実させながら郷土を愛する意識をより一層高める。		
------------	--	--	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上		・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内行事等により取組の促進を図る。	B	・校内研「学力向上」に向けて低中高の学年部を中心に授業改善に取り組んでいる。 ・学力向上対策評価シートに示したマイプランについては、集計できていない。	C	・校内研「学力向上」に向けて低中高の学年部を中心に授業改善に取り組むことができた。 ・学力向上対策評価シートに示したマイプランを共有する機会を設けることができなかった。	B	・数回しかも短時間での授業参観だったが、子ども達の授業に参加する姿勢や先生方の熱意は感じられた。 ・学校の努力に対し、児童の理解度が伴っていないのではないかと。	・学力向上対策コーディネーター ・学び部
	○一人一人を大切に作る授業づくり ・ICTの効果的な活用 ・思考力の育成	○「ICTを授業に効果的に活用した」と答える教師を90%以上 ○「ICTを活用した授業は楽しい」と答える児童を90%以上	・学期に1回はICTの研修会を実施する。また、活用方法の情報交流を行う。 ・タブレットを活用したドリル学習 ・思考段階での対話の場面の設定	A	・液晶型電子黒板の導入により、様々な教科の授業で活用している。また、1人1台端末でミラシードを活用しているクラスが増えてきている。 ・思考段階では、ペア学習やグループ学習を取り入れ、少人数での話し合いの場を設定している。	A	・Teamsを使って各学年リモート授業を行ったり、ミラシードを活用し個人に応じた学習ができた。 ・学習内容に合わせてペア学習グループ学習を取り入れた。また、タブレットを活用し自分の考えを書き込んだり全体で共有したりすることもできた。	A	・意欲が高まって、十分な使いこなし方を指導することが大切ではないかと。 ・新しい教育機器は、子ども達に大いなる知識と刺激を与えていると思う。使った効果が子ども達の学力として定着することを期待したい。	A	研究主任 学び部
	○基礎的・基本的な内容の定着 ・学習規律の徹底 ・家庭学習の充実	○授業前に、「次の授業の準備ができた」と答える児童を90%以上 ○家庭学習ががんばろう週間で「目標時間が達成した」と答える児童を90%以上	・本校での学習規律の取り組みの徹底を基本とし、全クラス取り組む。 ・小中連携して、家庭学習のがんばろう週間の日程に取り組む。	B	・学習規律の取り組みの徹底を基本とし各クラスに「学習のきまり」を掲示し、全クラスで取り組んでいる。 ・小中で連携をして「家庭学習のがんばろう週間」に取り組んでいる。	B	・全クラスで取り組んでいるが、達成度は学級や個人によって差があるため、達成できるための手立てを工夫し、引き続き取り組んでいく必要がある。	B	・子ども達の家庭内のことまではわからないが、アンケートの結果からみるとあまりよい結果ではない。 ・家庭での見守りと学校との連携強化が必要なのではないかと。	B	・研究主任 ・学び部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いこと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を90%以上 ○心を豊かにするために読書活動推進学年目標達成児童を85%以上	・朝の学級の時間や帰りの会などに、友達のいいところを見つけ称賛し合う。 ・図書館祭りなどのイベントの開催とその内容を充実させる。また、授業の内容と関連させた本の紹介を行う。	B	・それぞれの学級の実態に応じて、いいところ見つけの活動を取り入れている。 ・図書館祭りなどを開催し児童が読書に親しむように工夫した。各学年の「お勧めの本20冊」を改訂し、授業の内容と関連させた本の紹介をしている。	B	・いいところ見つけなどの活動を取り入れることで、自分や友達のように目を向けようとする態度を育てることができた。	A	・毎日の学校での学習や生活が、こんな気持ちを育てる基盤になると思う。その他にも様々な学年・学校行事、縦割りでの活動などを通して、他者を思いやる心を育てていると思う。	A	・道徳教育推進教師 ・人権・同和担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ・予防的、開発的な生徒指導の推進	○「いじめ防止等について組織的対応ができています」と答える教師を90%以上	・毎週水曜日の職員連絡会での情報共有と対策内容の徹底 ・毎月の「心のアンケート」の実施と対応 ・予防的な事前指導と問題行動が起こった際のスピード感のある対応	A	・小さな事案も全職員で情報共有した。対応や配慮が必要な事案は担任を中心に管理職や生徒指導主任等と内容を共有し継続して指導している。 ・月に1回の「いい日アンケート」を継続実施。昨年同様、自分や友達のことへの気付きも記入させている。児童の実態把握がより詳細にできている。	A	・いじめ調査を兼ねた生活アンケートを毎月実施。いじめ・不適応児の早期発見に努めた。 ・学級・学年担任の指導にとどまらず生徒指導主任や管理職も指導を行い早期解決を図った。 ・発生から途中経過、事後指導まで全職員で情報共有し組織的対応の体制が整っている。	B	・アンケートの結果はあまりよくなかったのは、効果がなかったということなのか。しかし、先生方があらゆる機会をとらえて目標を達成しようとする工夫・努力されているのは間違いないと思う。	B	・自分づくり部 ・教頭
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むとするための教育活動	○「自分の夢や目標に向かって努力している」と答える児童を85%以上	・学級目標や個人の各学期のめあて等を張り出すとともに、時々振り返らせ現状を確認させる。 ・学校行事や総合的な学習の時間に、キャリア教育を意識させて取り組む。	C	・5月の全国学習状況調査の質問紙の調査では、「将来の夢や希望を持っている」と答えた児童は6割で全国や県と比較しても1割ほど低かった。 ・全校調査が11月にあるので引き続き目標に向かって努力することの大切さを指導していく。	B	・佐賀新聞の「ぼくの夢・わたしの夢」の企画もあり、6年生が将来の具体的な目標を明確にすることができた。また、これは、PTA広報新聞にも掲載された。他の在校生にとっても大きな刺激になっていた。	A	・アンケートの結果はあまりよくなかったのは、効果がなかったということなのか。しかし、先生方があらゆる機会をとらえて目標を達成しようとする工夫・努力されているのは間違いないと思う。	A	・自分づくり部 ・教頭
	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童が90%以上 ○朝食をとって登校する児童が100%	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健便りの発行 ・食育月間の実施、食の大切さの啓蒙 ・学級活動での食育推進	B	・6月に実施した「学習・生活ががんばろう週間」では、毎日朝食喫食率が82%だった。6月には食育月間も実施したが朝食の大切さについての啓蒙がまだ足りなかったと考えられるので、10月に行う食育月間では強調していきたいと考える。	B	・12月に実施した学校評価アンケートで、毎日朝食喫食率が保護者では88%、児童では85%あり、「大体そう思う」で含めると前者99%、後者95%となり、目標に近づけることができた。10月の食育月間や1月の給食週間等で食育について啓蒙してきたことの効果があった。	B	・アンケートの結果から、そう思われる。 ・声かけすると、元気な声が返ってくる。	B
○運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立		○業間休みや昼休みにおいて、「元気に体を動かした」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○「早寝」「早起き」の児童の定着率を80%以上にする。	・外遊びの奨励、体育委員会からの全校遊びの提案等で運動機会の確保 ・体育委員会による全校遊びは11月に予定。児童の体を動かすきっかけとしていきたい。スポーツチャレンジのポスターを目にしやすい場所に掲示しているが参加の声掛け等の啓蒙はできていない。	B	・体育委員会の放送や各学級担任による外遊びの奨励により、外遊びをする児童は多い。 ・体育委員会による全校遊びは11月に予定。児童の体を動かすきっかけとしていきたい。スポーツチャレンジのポスターを目にしやすい場所に掲示しているが参加の声掛け等の啓蒙はできていない。	A	・体育委員会の放送や各学級担任による外遊びの奨励により、体を動かす児童は増えている。 ・体育委員会による全校遊びを実施することができた。児童はドッジボールを楽しんでいた。 ・スポーツチャレンジ参加の声掛けや啓蒙等はできなかった。来年度はぜひ！	B	・アンケートの結果から、そう思われる。	B	・体育、保健担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・18時半頃に退勤の声掛けを行うと共に、平日の19時退勤の厳守 ・金曜日の定時退勤(18時)の奨励	B	・年度当初の4月と体育大会があった5月は、19時の退勤時間を超える場合が多かったが、7月～9月は19時まで退勤できる日が増えてきた。今後は、金曜日の18時退勤の声掛けを積極的に行っていく。	B	・今年度もコロナ対応に追われた年であった。特に今年度後半では、児童や保護者にも感染者や濃厚接触者が多数出てリモート授業のやり方に慣れるまで教職員の負担も増えたように思う。 ・一部の教職員が遅いので個別対応が必要。	B	・この2年余り、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながらの学校運営は大変だったことと思う。そんな中で、日常と変わらない学習や行事ができる限りの努力と工夫で子ども達のために体现された先生方に感謝したい。	B	・教頭、校長
	○教職員の勤務意欲の向上	○「仕事にやりがいを感じている」と答える教師を85%以上	・チーム東脊振としての組織的な対応の強化 ・教師自身の自己肯定感が高まるように、慰労と称賛の声を掛け合う。	C	・落ち着いた学習ができていない学級があり、その応援態勢で、特定の職員に負担が掛かっている。 ・チーム東脊振として全職員によるバックアップ体制をとり、学級を落ち着かせるとともに、特定に職員に負担が係りすぎないように配慮を行っている。	B	・落ち着いた学級が2クラスあり、その応援態勢で職員に負担が掛かっていた。やはり、基本は学級経営である。学級を落ち着くと、教職員の負担も軽くなり、やりがいの意識も高まると思う。また互いに尊敬し合い称賛し合えるような職場を目指したい。	B	・先進的な秋田県などでは、学校単位ではなく市町村の教育委員会が家庭学習の重要性を指導。町全体で見守る体制が取られている。本町においてもそういうバックアップがあれば、教職員の負担軽減と勤務意欲の向上につながるのではないかと。	B	・教頭、校長
(2) (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域愛を高める教育	○ふるさとを愛する児童の育成	○東脊振の良さを「低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上」言える児童を85%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の時間で地域教材を取り入れる。 ・地域人材の活用 ・道徳と関連させた内容も検討していく。	B	・3年生の茶摘み体験、また、社会福祉協議会の支援を受けての4年生の福祉体験等、地域のつながりを生かして有意義な体験ができている。さらに地域と関わる教材を中心に全学年に広げていきたい。	B	・コロナ禍でもあり、縮小したり中止になった行事もあったが、それぞれの学年で地域とふれあう取り組みはいくつか実施することができた。特に、保護者がGTとなって行った「豆腐づくり」は、子ども達にとっても好評であった。	B	・吉野ヶ里歴史公園、霊仙寺、お茶などの町の素材、また日帰り旅行を利用した県の素材などを計画的に活用した学習を行っている。 ・副読本の活用が望まれる。	B	・各学年主任、教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	①家庭の協力を得ながら生活のリズムを整え、自学も含めた家庭学習の充実をはかり、学びに向かう力をより一層高める。 ②学習規律を徹底して落ち着いた学級経営を基盤に、授業改善と基礎学力の定着を図りながら学力の向上を目指す。 ③豊かな体験活動を通して自己肯定感の醸成を育むとともに、地域との連携を充実させながら郷土を愛する意識を高める。		
--------------------	--	--	--